

田原公民館報

平成27年
3月号



法人団 田原公民館
〒1078-1017 奈良市生野学道
TEL 81-0888-1017
発行責任者 泉森 由貴

「やすらぎの炎」

館長 泉森 由貴

田原は平地に比べて雪深く、タイヤなど積雪対策にばかり気をつけてきましたが、時には濃霧に悩まされます。ひどい時は一日中、もやに包まれた日もあり、センターラインを気にして車を走らせていると、急にライトをつけた対向車が現れて、驚かされることがあります。



絵：平古力三

さて、年度末です。1月は行く、2月は逃げる、3月は去ると言いますが、慌ただしく過ぎていくと、すぐに新年度を迎えてしまいうです。人は一定のリズムの中で生活していますが単調なリズムだと変化がなくて、時間の経過を早く感じてしまうのかもしれない。逆にラジオのノイズのような雑然としたリズムのない世界で生きていると、体調も崩しかねません。一定を求めつつも変化のある生活。それが人らし

く生きるということなのでしょう。

先日、ご近所の協力のもと、公民館敷地内にある朽ちかけた木の伐採をしました。

竹にもたれかかるように立つ木は少しの力でも傾きそうなものでした。作業後すっかり綺麗になり、本来剪定ゴミになる廃材は、知人に引き取ってもらうことになりました。自宅に薪ストーブを設置しているのので、乾燥させて来年の燃料にしたいとのこと。そういえば田原でも薪をくべて暖をとられるお家が多いと聞きます。暖房用としてはもちろんのこと、お風呂を沸かす燃料としても現役で使われているそうです。

薪ストーブの魅力はその圧倒的な火力が生む暖房能力ですが、炎が生み出す癒やしの効果も期待できるといいます。押し寄せる波やゆらぐ炎は自然界に存在する不安定なリズムに則って繰り返されます。人間もそのリズムを持っていて、心拍もその法則に従っているそうです。ろうそくの炎をみつけて精神の安定を図るキャンドルセラピーというのもあるそうです。

不規則さと規則正しさがちょうどいい具合に調和している状態。そんなアナログの世界に心地よさを覚える人間。公民館が地域にとってやすらぎの場所になるには規則正しいデジタルの世界ではなく、暖かく、優しい大きな炎に人が寄り添う暖炉のような存在でありたいものです。

21番目のグループが誕生しました

昨年5月から10月に掛けて、田植えや稲刈りなどの体験を通じて、田原地域の魅力を発信しようと実施した主催事業「田原ファイン倶楽部」。館報11月号でも受講者ご家族の声を紹介しましたが、今回新たに公民館の自主グループとして修了生が集うことになりました。

皆さん田原に魅了された、小学生をもつご家族です。代表者の中尾さんに立ち上げについての思いを伺いました。

田原倶楽部代表 中尾壮一さん

「子どもに、色々な体験をさせたい。今の社会では、出来ないことを体験してほしい。」田原倶楽部を立ち上げた最大の理由です。



長女が佐保小学校に入学して間もなく、学校からプリントが届きました。「田原ファイン倶楽部」です。「田原ってどこ?」「そんな近くで、田植えや魚釣り、稲刈りができるのか?」親自身が興味を持ち、すぐ電話し、3歳の次女も入れてもらいました。田植えはもとより、お餅つきやステンドグラスの制作なども体験できました。田原ファイン倶楽部は10月で終了。十分な満足感と共に、出来ることが山ほどあるという気持ちで湧きました。

正直、寂しくなる生活をみます。ご飯を食べに行く、近くでは会話もなく子どもはゲームばかり。外で遊ぶ場所も少なくなり、ゲーム機に夢中。便利なのはいいことです。でも、今だからできる、今しかできない経験があると考えています。

会が終わわり、子どもは「もう田原に行かないの?」「また稲刈りしたいな。」と言います。自分で言うのもなんですが、子どもにはやれることはやりたいイクメンです。

田原倶楽部でやりたいこと。それは子どもたちに色々な経験と発見をしてほしい。「茶摘みはどの部分を探るのか?」「キュウリはこんな風についているのか。」自然の中で、体感することが大事です。

そして、このすばらしい環境を提供してくれる田原地区を奈良全体に発信していきたいです。「野菜はこんな近くでおいしいものがある。」「大きいお祭りやイベントがある。」そんな魅力ある田原地区を、もっと皆さんに知って頂きたいです。

また、子どもをお持ちの親御さんと一緒に、田舎でしかできない体験や自然を楽しむたいなと考えています。たくさんの方に参加していただけるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。

※田原倶楽部は、今後皆さんに分かるように名称変更を考えています。





取材：平古力三
写真：泉森由貴

第11回は「竹細工工房」の館長 上畑 勇さんの登場です。

制作中のお忙しい工房で、作業説明を受けながら取材が始まりました。▼この40センチ四方に編んだ網の形から作り始めるのですか。●そうです。竹の色と幅を均一にして編みこみ、箕は3週間程乾燥させます。竹は水分が多く、しっかり乾燥しないと網目に隙間が出てきてしまいます。そして、籠の角になるような所の竹はガスの火を適度に当てて割れないように曲げていきます。▼ところで、上畑さんが田原やま里博物館に認定されたのはいつですか。●平成23年3月です。▼田原やま里博物館に入られて良かったことは何ですか。●電話での問い合わせや博物館マップを公民館でもらって訪ねて来られる方もいます。こうして沢山の方との出会いがうれしいですね。昨年の春休みには、父兄と小学1年生から6年生の33人が奈良から鉢伏を歩いて見学に来てくれました。体力作りと歴史の勉強ができて一石二鳥、人生の勉強にもなったのだと思います。私も子ども達との交流や再開も楽しみにしています。▼今、主に何



を作っておられますか。●竹はもともと日用品を作る自然素材として重宝がられていましたが、最近はその竹細工の職人さんが少なくなりました。ですから遠方からも訪ねてこられ、町内の行事や村祭りの装具など色々な品物を造らせてもらっております。▼勇さんは何代目になるのですか。●父を継いで五代目です。定年まで勤めてから出仕事と本格的に取り組み、桶屋さんに樽のたが締めも勉強に行きました。今もまだ修行中です。熟練しないと出来ない品物もあります。▼ところで、素材の竹は田原地区の竹ですか。●はい。他にも南山城で買付けもしています。竹林で制作物に合わせ、真竹・淡竹・孟宗竹それぞれの特徴を生かし、節の高さや長さ、色も検討します。そして、3年から5年の竹を含水率の少ない11月頃に一人で切り出します。孟宗竹は40キロにもなる竹もありますから切り出し方にもコツがいりますね。風向きも計算します。▼串柿作りに使う竹串は1年前の乾燥した竹と聞きましたが、竹の種類によって特徴も異なるのですか。●孟宗竹は硬くて丈夫ですが、細工には不向きです。けれども枝はなぜかとてもしなやかですよ。真竹、淡竹はしなやかで節の低いものが加工にむいています。▼この龍の顔に見える作り物は何かですか。●社寺にある清めの水口で龍の口とも蛇の口とも言われて、水道の蛇口の語源です。設置場所や使われ方の違いを見極めていきます。▼今、挑戦されている制作物は何かですか。●後世に残るような置物でお土産ものになるものです。反りや割れがなくて買って貰いやすい物、そんな竹細工の工芸品をぜひ作りたいものです。

公民館からつながる学びの和

会場：奈良市立中部公民館
主催：(公財)奈良市生涯学習財団

奈良市の公民館23館と生涯学習センターで学ぶ自主グループの祭典です。作品展示や学習発表、学習体験、調理作品販売もあっても楽しい12日間です!



7日(土)

午前 9:30 ~ 午後 5:00

- 作品展示：自主グループ作品
- 料理コーナー 喫茶コーナー お茶席 生涯学習体験
- しか丸くん撮影コーナー・ぬりえコーナー わいわい!ファミリーコンサート
- トゥインクルのはっぴー☆はっぴージャグリングショー 気軽にあじわう落語の世界

8日(日)

午前 9:30 ~ 午後 3:30

- オープニング：100名コーラス
- 学習発表：自主グループ発表
- 作品展示：自主グループ作品
- 生涯学習体験
- 料理コーナー 喫茶コーナー
- しか丸くん撮影コーナー・ぬりえコーナー
- フィナーレ：にぎわい太鼓



3月の公民館関係行事とお知らせ

- 7日(土)・8日(日) 生涯学習フェスタ2015 於：中部公民館 (両日も田原公民館は臨時休館となります)
- 8日(日) おん田祭 午前9時~ 南田原町天満神社にて
- 16日(月) 田原幼稚園卒園式
- 17日(火) 田原小中学校卒業式
- 19日(木) プチ田舎暮らし 田原一果樹剪定
- 21日(土) 祝日のため休館



田原公民館から参加する自主グループのご紹介

公民館を代表して3つのグループが参加されますので、地域の皆様の多数のお越しをお待ちしています。

- 作品展示** パッチワーク ゆめキルト 7日・8日 終日 4階展示会場
- 学習発表** 日本舞踊 八重の会 8日13時半ごろから 5階ホール
- 調理販売** 手作りこんにやく・えび餅販売 ぶるるん会 7日 11時から 3階エレベーター前 売り切れ次第終了となります。